（別紙様式4）

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和1年11月25日
（前回公表年月日：平成30年9月25日）

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
札幌医学技術福祉歯科専門学校	昭和57年3月19日	佐々木　雅男	〒064-0805 札幌市中央区南5条西11丁目1289－5 （電話）011－513－2111
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人西野学園	昭和43年1月10日	前鼻　英蔵	〒063-0034 札幌市西区西野4条6丁目11－15 （電話）011－661－6514

分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士
医療	専門課程	臨床検査技師科	平成6年文部科学省 告示第84号	－

学科の目的	学校教育法並びに臨床検査技師法に基づき、授業や演習、医療機関での実習を行い、臨床検査技師として必要な実践能力及び専門的知識・技能を習得させるとともに、その徳性を養わせることを目的とする。
認定年月日	平成27年　2月25日

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼間	3075時間	1695時間	60時間	1290時間	－	30時間

単位時間

生徒総定員	生徒実員	留学生数（生徒実員の内	専任教員数	兼任教員数	総教員数
240人	189人	1人	9人	40人	49人

学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日	成績評価	■成績表：　有 ■成績評価の基準・方法 学習成績の評価は、定期試験（論文含む）、または演習、実習などの成績ならびに平素の学習活動全般から得られる評価資料（レポート等）に基づいて総合的に行う。 科目の成績の総合評価は、100点法をもっておこなう。 科目の評定は総合評価に基づいて秀・優・良・可・不可の5段階で行う。
長期休み	■学年始：4月1日～4月3日 ■夏　季：8月6日～8月30日 ■冬　季：12月24日～1月17日 ■学 年 末：3月18日～3月31日	卒業・進級条件	教育課程編成委員会並びに学科会議において卒業認定の方針（ディプロマポリシー）を定め、公表している。 校長は、学則に定められた当該学年に履修すべき科目のすべてを修得し、学校納入金を完納した者に対して、進級を認める。また、当該学科所定の修業年限以上在学し、履修すべき科目のすべてを修得し、学校納入金を完納した者に対して、卒業を認める
学修支援等	■クラス担任制：　有 ■個別相談・指導等の対応 年度初め、年度末、臨地実習前などに全員と担任が面談実施 定期試験後、問題発生時に対象学生と面談・指導を行う	課外活動	■課外活動の種類 学園祭、バスハイク 新入生歓迎会、球技大会、地域清掃 ■サークル活動：　有
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等（平成30年度卒業生） 病院・臨床検査センター等 ■就職指導内容 挨拶、身だしなみ、ビジネスマナー、履歴書添削、面接練習、 小論文添削　等 ■卒業者数：56 人 ■就職希望者数：56 人 ■就職者数：56 人 ■就職率：100 % ■卒業者に占める就職者の割合：100 % ■その他 ・進学者数：0人 （平成　30 年度卒業者に関する 令和1年5月1日 時点の情報）	主な学修成果（資格・検定等）※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 （平成30年度卒業者に関する令和1年5月1日時点の情報） ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等） ■自由記述欄

資格・検定名	種	受験者数	合格者数
臨床検査技師	②	56人	54人
ビジネス実務マナー検定2級	③	－	2人
ビジネス実務マナー検定3級	③	－	3人
札幌市防災協会普通救命講習	③	54人	54人

中途退学の現状	■中途退学者　3　名　■中退率　1.5 % 平成30年4月1日時点において、在学者192名（平成31年4月1日入学者を含む） 平成31年3月31日時点において、在学者189名（平成31年3月31日卒業者を含む） ■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 個人ファイルを作成し面談の記録等を記載しながら、継続的な学生指導を行っている。必要な場合は学生サポートセンターに相談している。 また、学力不足の学生については、補習授業を行い学力の定着に努めている。

経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度:　有 1. 特別奨学生支援制度 仕事への志が高く、人物・成績ともに優秀な方に対して、「課題作文（800字程度）」の評価により本校の特別奨学生として適格であると認め、入学時の学納金のうち入学金全額「20万円」または一部「10万円」を免除する制度です。 2. 子弟入学者支援制度 西野学園の各専門学校・専門課程在学生または卒業生及び看護科2年課程（通信制）の在籍または修了者の親・子・兄弟・姉妹で、本校の入学試験に合格した方に対して、授業料の一部10万円を減免する制度です。 3. 特別経済支援制度 修学意欲が高く成業の見込みがある方で、個人住民税所得割が非課税の世帯など経済的な理由により就学困難な事情のある方を対象に年1回20万円を支援する制度です。 4. 西野学園学費支援制度 経済的な理由から授業料等学校納付金の納入が困難な状況の方で、学業成績が平均水準以上であり日常の生活態度が良好な方に対して、年1回、第Ⅲ期学校納付金額を上限として支援を行う制度です。 5. 遠距離通学サポート制度 遠距離のため経済的に進学が困難な方（JR札幌駅起点に営業キロ100キロを超える通学定期券を購入する方で世帯全員の給与収入500万円以内の方）を対象として、通学に係る経済的な配慮を行う制度です。 修業年限の期間を上限として、1か月又は3か月通学定期（特急含む）の半額を支援します。 ■専門実践教育訓練給付:　給付対象 平成31年度3名受給。
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:　無
当該学科のホームページURL	http://www.nishino-g.ac.jp/iga/rin/

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

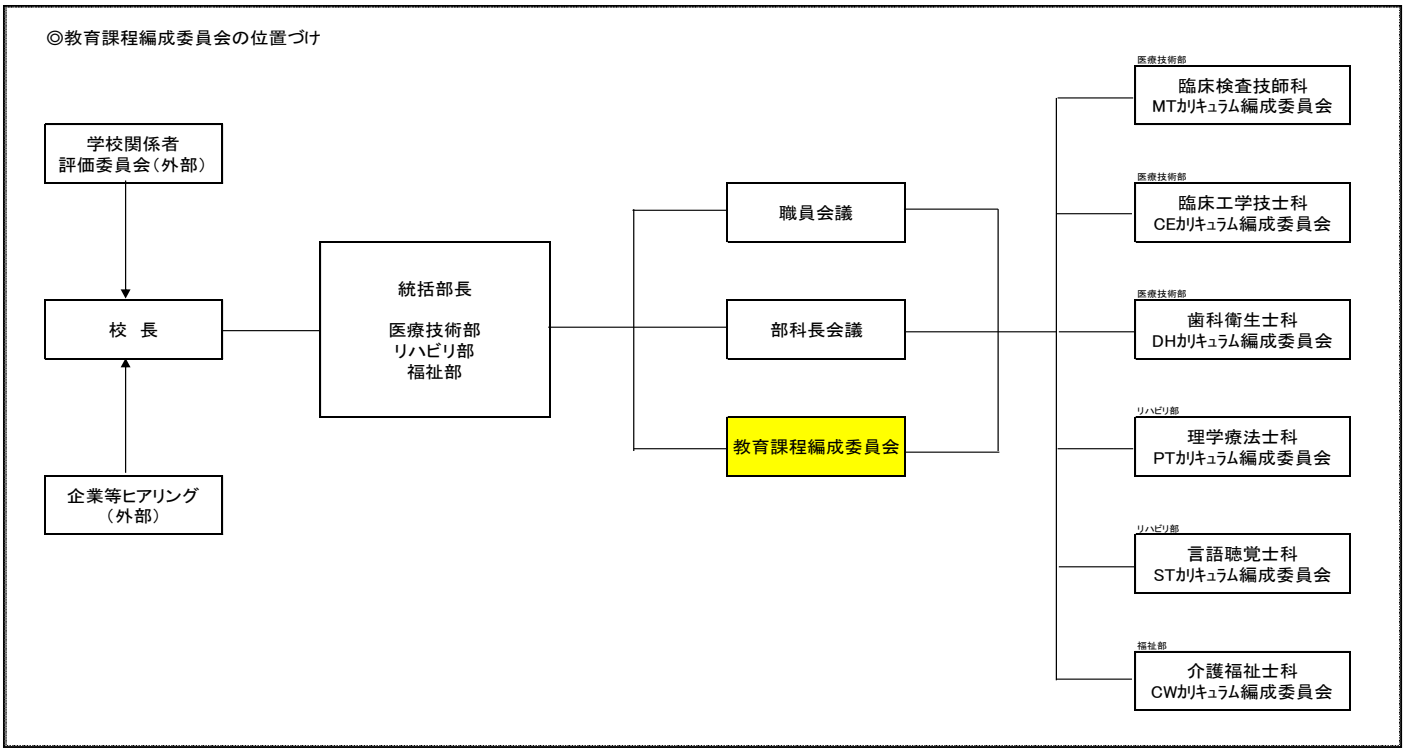
（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

関係法令を遵守し編成しなければならないことは勿論、学生の実態・就職施設（病院等）の要望を把握し教育課程編成委員会において慎重に議論を行う。

特に就職施設企業（病院等）の要望については、西野学園本部学生サポートセンター就職支援担当が実施している数カ月にわたる病院等へのヒアリングの結果を報告会等で情報収集し意見交換を行う。その結果を学科会議、カリキュラム編成委員会等で報告し教育課程編成に反映させる。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

① 学科のカリキュラム編成委員会にて教育課程の原案を作成する。
② 教育課程編成委員会へ変更案を提出し、助言及び評価意見と共に学科のカリキュラム編成委員会へ戻す。
③ 学科のカリキュラム編成委員会にて作成された修正案を教育課程編成委員会にて再審議し、承認が得られたならば統括部長へ進達、不備があれば再度学科のカリキュラム編成委員会へ差し戻す作業を複数回繰り返す。
④ 統括部長が養成所指定規則との整合性や学校関係者評価委員会および企業等ヒアリング等で寄せられた意見等の反映具合等をチェックし、校長へ上申する。
⑤ 校長は案の作成過程等を統括部長および学科長へヒアリングの後決裁し、教育課程案が決定される。



（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年9月5日現在

名　前	所　　属	任期	種別
林　光昭	札幌臨床検査技師会　常任理事	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日	①
三浦　邦彦	医療法人渓仁会　手稲渓仁会病院 臨床検査部　マネージャー	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日	③
佐藤　　忠	札幌医学技術福祉歯科専門学校 医療技術部　統括部長	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日	
松林こずえ	札幌医学技術福祉歯科専門学校 臨床検査技師科　学科長	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日	
浮須　智子	札幌医学技術福祉歯科専門学校 臨床検査技師科　主任	平成30年4月1日～ 令和2年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

（年間の開催数及び開催時期）

年2回（6月、11月）

（開催日時（実績））

第1回　令和元年6月25日　18:30～20:00

第2回　令和 2年1月30日　18:30～（予定）

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

今後現場では「遺伝子染色体検査」「様々な分野の超音波検査」「認知症、在宅医療など」の分野での臨床検査技師の活躍が期待されているとの教育課程編成委員の助言があり、次回のカリキュラム変更に生かしていく予定である。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

学科の経営目標に基づく人材育成に際して、病院施設関係者等から最新の医療業界の動向や現場の実務に関する知識や技術についての意見等を伺い、それらを十分に反映させた授業科目の開設を検討し、授業の内容・方法の改善や工夫を図っていく方針である。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

実施希望項目、出欠、レポート、評価などについて臨地実習指導者会議にて説明、実施している。また、実習期間に訪問や電話にて各実習施設と連携をとっている。実習の進捗状況、学生の実習状況について状況把握して期間中3回のの登校日に学生指導を行っている。

さらに、実習終了後に学生の資質の変化や学校側として強化指導すべきことなどについてアンケートを取り、次年度実習をより良いものにすべく努力をしている。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	科　目　概　要	連　携　企　業　等
臨地実習	学内の講義や実習で学んだ事を基本とし、実際の臨床現場での体験を通して、臨床検査技師としての実務を実践するのに必要な知識や技術を身につけると共に、医療人としての社会性や倫理観を養う。	札幌医科大学附属病院、北海道がんセンター、市立札幌病院、札幌厚生病院、北海道医療センター、手稲渓仁会病院、札幌徳洲会病院、札幌東徳洲会病院、NTT東日本札幌病院、斗南病院、KKR札幌医療センター、こども総合医療・療育センター、小樽市立病院、小樽協会病院、江別市立病院、市立千歳市民病院、勤医協中央病院、北海道大野記念病院、函館中央病院、市立函館病院、北見赤十字病院、旭川厚生病院

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

教職員研修規程に則り、企業等と連携して、専攻分野における実務に関する研修や指導力の修得・向上のための研修等を教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務等に応じて受講させることを基本方針とする。

また、校長は計画的に受講させるために年間研修計画を策定し、①専攻分野における実務に関する研修等、あるいは②指導力の修得・向上のための研修等を受講させる。

（2）研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名「超音波ハンズオンセミナー」（連携企業等:十勝超音波研究会）

期間：5月25日（土）　対象：臨床検査技師　内容：心エコー・下肢静脈エコーの手技を学ぶ

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名「第68回　日本医学検査学会」（連携企業等:日本臨床衛生検査技師会）

期間：5月17日（金）　5月18日（土）5月19日（日）　対象：臨床検査技師　内容：臨床検査における最近の動向を知る

研修名「第14回日本臨床検査学教育学会学術大会」（連携企業等:日本臨床検査学教育協議会）

期間：8月21日（水）　8月22日（木）　8月23日（金）　対象：臨床検査技師養成校教員他

研修名「夏季専門学校教職員研修会【メンタルヘルス対応力向上研修会】」

期間：8月27日（火）8月28日（水）　対象：専門学校教職員　内容：メンタルヘルスの基礎知識及び発生時の正しい初期対応を身に付ける

（3）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

②指導力の修得・向上のための研修等

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき実施した自己点検評価結果について、学校関係者による評価を受けることにより自己点検結果の客観性・透明性を高める。

また、教育活動に関する意見交換を通し、学校と密接に関係する外部の方（関連業界等関係者、関係専門職団体、地域住民、卒業生等）の理解促進や、連携協力による学校運営の改善を図ることを基本方針とし、実践的な職業教育の実施を目指す。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	1 理念・目標・育成人材は定められているか 2 社会のニーズ等を踏まえた学校の構想を抱いているか 3 理念・目的・育成人材像・特色などが学生・保護者等に周知されているか
（2）学校運営	4 目標等に沿った運営方針が策定されているか 5 運営組織は明確にされ、有効に機能しているか 6 情報システム等による業務の効率化が図られているか 7 学校内総合力を高めるための連携と協働体制の確立が図られているか 8 教育活動に関する情報公開が適切になされているか
（3）教育活動	9 教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか 10 学校行事の適切な企画、円滑な運営がなされているか 11 授業規律を確保し、指導体制の立て直しが図られているか 12 関連分野の企業、関連施設等、業界団体等の連携により、教育課程の作成、見直しが行われているか 13 成績評価、単位認定の基準は明確になっているか 14 授業評価の実施、評価体制があるか 15 職員の能力開発のための研修が行われているか 16 クラス担任と教科担任の連携を密にし、学生の実態にあった指導法の確立に努めているか
（4）学修成果	17 就職率の向上は図られているか 18 退学率の低減は図られているか 19 卒業生・在校生の社会的な活動及び評価を把握しているか
（5）学生支援	20 学生相談に関する体制は整備されているか 21 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 22 保護者と適切に連携しているか 23 卒業生への支援体制はあるか 24 LHRなどを効果的に活用し、職業観の育成に努めているか 25 社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか 26 学生が自己理解、自己啓発、自己実現をするための方策が整備されているか
（6）教育環境	27 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか 28 図書室利用の活性化が図られているか 29 防災に対する体制は整備されているか
（7）学生の受入れ募集	30 学生の募集は適正に行われているか 31 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
（8）財務	32 中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか 33 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
（9）法令等の遵守	34 法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 35 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
（10）社会貢献・地域貢献	36 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 37 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか
（11）国際交流	―

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会による評価の結果、学校による自己点検結果については全般的に一定の理解を得ることが出来たと思われる。しかし、卒業生や他職種との連携や地域における役割等については課題として提示されたため、今後は学校・学科経営計画策定や、カリキュラム・授業内容の検討等の教育活動を見直す際の判断材料として意見を反映するよう取り組み、さらなる実践的な職業教育の実施を目指す。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和1年7月29日現在

名　前	所　　属	任期	種別
籔　貴代美	北海道言語聴覚士会　副会長 （医療法人社団明日佳　札幌宮の沢脳神経外科病院）	平成30年4月1日 ～令和2年3月31日	企業等委員 関係専門職団体
松本　剛一	社会福祉法人ほくろう福祉協会　理事長	平成30年4月1日 ～令和2年3月31日	企業等委員
濱本　龍哉	北海道理学療法士会　副会長 （医療法人　新さっぽろ脳神経外科病院）	平成30年4月1日 ～令和2年3月31日	企業等委員 関係専門職団体
松田　　弘	札幌市中央区西第八町内会　会長	平成30年4月1日 ～令和2年3月31日	地域住民

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生、校長等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
（ホームページ　　公表時期：令和1年11月30日
URL:　http://www.nishino-g.ac.jp

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」に基づき、企業等の関係者の理解を深めるとともに、さらなる連携・協力の推進に資するため、教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を積極的に提供することを基本方針とする。これにより、相互の情報交換が促され、学外実習、就職指導など企業等との連携による活動の充実や、産業界等のニーズを踏まえた教育内容・方法の改善につながることが期待される。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	●学校の教育・人材養成の目標及び教育指導計画、経営方針 ●校長名、所在地、連絡先等 ●学校の沿革、歴史
（2）各学科等の教育	●収容定員、在学学生数 ●カリキュラム（科目編成、授業時間数） ●進級・卒業の要件等（成績評価基準、卒業修了の認定基準等） ●学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等 ●卒業後の進路（主な就職先、就職率等）
（3）教職員	●教職員数
（4）キャリア教育・実践的職業教育	●キャリア教育への取り組み状況 ●実習等の取り組み状況 ●就職支援等への取り組み状況
（5）様々な教育活動・教育環境	●学校行事への取り組み状況 ●課外活動（サークル活動等）
（6）学生の生活支援	●学生支援への取り組み状況
（7）学生納付金・修学支援	●学生納付金の取り扱い ●活用できる経済的支援措置の内容等（奨学金、授業料減免等の案内等）
（8）学校の財務	●賃借対照表、収支計算書
（9）学校評価	●自己評価、学校関係者評価の結果 ●評価結果を踏まえた改善方策
（10）国際連携の状況	ー
（11）その他	●学校運営の状況に関するその他の情報

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法
ホームページ　URL:　http://www.nishino-g.ac.jp

授業科目等の概要

（医療専門課程臨床検査技師科）令和1年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			心理学	心理学とは人の「こころの働き」を科学的に明らかにする学問です。単なる直観や推測に頼らずに科学的にこころの働きを見つめなおすことで、人は一般的にどのような心理傾向を持つのか、どのような心理からどのような行動が生じるのかを知ることが出来ます。そして、それらを知ることが、自分だけでなく他の人を助けることにもなるでしょう。 ★仕上がり像 １　一般的な人の心理傾向を知ることが出来る。 ２　心理学の知識を生かした判断が出来る。 ３　様々な人と向かい合う医療の現場で、臨床検査技師としての役目を果たせる。	1前	15	1	○			○			○	
○			国語表現法	社会では、日常話したり書いたりする何気ない「言葉」、すなわち国語表現によって、自分が評価され、他者とのコミュニケーションも成立します。この授業では、自己発見・自己啓発を心がけつつ、基本となる技術をマスターし、書き慣れることで国語表現力を高めていくことを目指します。 ★仕上がり像 １　実験・実習等のレポートが適切に書ける。 ２　就職に際して必要な国語基礎力を備え、自分をアピールできる作文が書ける。	1前	15	1	○			○			○	
○			コミュニケーション学	臨床の場面においては、臨床検査技師としての知識やスキルが身に付いていることはもちろんのこと、コミュニケーション力が大切です。なぜなら医療はチームで行われるものです。様々な人と円滑な人間関係を築きながら患者様にとって最善の方法を選択していくためです。そのためにはコミュニケーション力は必要不可欠です。 ★仕上がり像 １　どのような立場の方とでも、相手の考えをしっかりと聴き取り、自分の考えも伝えていくことができる。 ２　医療現場においてチームとしての関わりができる。 ３　職業人（医療人）に必要とされる基本的な「コミュニケーション力」を身に付けることができる。	1前	15	1	○			○			○	
○			基礎計算法	臨床検査では、必要な溶液を正確な濃度に調整することが求められます。また、化学分析を行った後は、実験の測定結果や反応試薬の濃度を使って成分濃度を計算する必要があります。この授業では、授業と演習を繰り返しながら、%やモルを用いた溶液調整、化学計算の能力を身に付けることを目的とします。 ★仕上がり像 １　単位変換ができる。 ２　溶液の濃度調整を行うための計算ができる。 ３　臨床検査で用いる濃度単位について説明することができる。	1前	15	1	○			○		○		
○			数学	物事を数量的に把握することは、たいへん大切なことです。 とくに、臨床検査技師という職業では、これは必須といえるでしょう。 この授業では、 ・中学・高校で学んだ数学の復習と基礎固め ・「統計学」（１年後期）のための準備 を目的とします。 ★仕上がり像 １　基礎的な計算力が向上しています。 ２　「統計学」に進むための基礎ができます。	1前	15	1	○			○			○	
○			統計学	実験や測定を行うと、その結果としてデータが得られます。そこから何か役に立つ情報を引き出すには、統計学の理論にもとづいた処理が必要になります。 この授業では、まず統計学の考え方を学び、それから統計的処理の基礎のうち、臨床検査技師を目指す皆さんにとって特に大切と思われることを学習します。 ★仕上がり像 １　統計学の基礎となっている考え方が理解できるようになります。 ２　データの統計的処理の考え方が理解できるようになります。 ３　比較的少ないデータなら、電卓を用いて自分で計算できるようになります。	1通	15	1	○			○			○	
○			物理学	臨床検査に利用される機器の原理や生命現象を科学的に理解するうえで、基本となる物理学は臨床検査を支える重要な科目です。本講義を通じて、さまざまな物理現象について理解を深め、将来、臨床検査の専門家として必要となる基礎・基本を身に付けましょう。 ★仕上がり像 １　物理学で扱う基本的な計算ができる。 ２　物体の運動、熱、音と光、電気と磁気についての基本的な考え方が理解できる。 ３　医療機器の作動原理を学習するうえで、必要な物理の基本的概念が理解できる。	1通	30	1	○			○			○	

○			生物学	・臨床検査技師を考え、「生命」・「ヒトの生物学」についての基礎生物的な授業 ・授業を通じて、理論と実践の両面から臨床検査技師の専門性の考察 ・生命、誕生等生命に関わる内容。ヒトの生物学、生命現象に興味が持てるような授業。 ★仕上がり像 １　生物は細菌からヒトまで共通の原理に基づきながら複雑さと多様性を持つことができる。 ２　医療技術者として必要な生命に対することを理解できる。 ３　生命とそれを支える生命現象の仕組みについて分子レベルを含めて理解できる。	1 前	15	1	○			○			○	
○			化学Ⅰ	物質の構造や物質の状態、化学変化の基本的概念とともに、化学的な考え方について理解を深め、将来、臨床検査の専門家として必要となる実践的な応用力を身に付けましょう。 ★仕上がり像 １　日常の様々な現象を化学的に説明することができる。 ２　臨床検査の専門科目を学習するうえで、必要な化学の基本的概念が身に付いている。 ３　臨床検査の測定体系や結果解釈について、化学的に考察し的確な対応をとることができる。	1 前	30	1	○			○			○	
○			化学Ⅱ	化学平衡、水溶液中の化学平衡について学習します。また、有機化合物の種類、名称及び化学反応性について学習し、生命の源である各種化学物質への理解を深めましょう。 ★仕上がり像 １　生体内における緩衝作用の重要性について理解できる。 ２　有機化合物の構造と化学特性との関係について理解できる。 ３　有機化合物の構造や名称から、その化合物の性質や化学的性質を予測することができる。	1 後	30	1	○			○			○	
○			英語Ⅰ	１５回の授業を通して英文法の概要を学び、習得します。英文の構造を考えながら、基本的な英語の文法を学び、演習問題で理解を確認します。さらに、それらを運用して初歩的な英作文を試みます。英語は配置・配列によって意思疎通を図る言語です。従って英文特有の構造を学ばなければなりません。日本人が苦労するのは、ひとつは、動詞の働きによる文型の理解。もうひとつは修飾・被修飾関係の理解です。さまざまあるなかでも後置の分詞の働きと後置の関係詞の働きの見極めが極めて大切です。 ★仕上がり像 １　基本的な英語のルールを学び、日本語とは異なる英語の構造がわかる。 ２　英文を読む基礎を身に付けて、易しい英文が書けるようになる。 ３　口頭表現ができる。	1 前	30	1	○			○			○	
○			英語Ⅱ	英語Ⅱでは、基本的な医学用語を身につけ、医学に関する簡単な文章を読めるようにします。特に臨床検査に関する専門用語、略語、表現を中心に学習し、健康診断などでよく行われる検査については、できるだけ平易な構文を用いて外国人の患者さんにも手順を説明できるようにします。毎回授業の最後には、ドラマERを用いて検査項目のオーダーや検査結果の聞き取りをし、専門用語がどのように使われているか確認します。 ★仕上がり像 １　基本的な医学用語の意味がわかり、医学に関する簡単な文章を読むことができる。 ２　臨床検査に関する専門用語、略語の意味がわかり、発音できる。 ３　自然な早さの英語から、病名や症状、検査項目などを聞き取ることができる。 ４　外国人の患者さんに、検査室での対応ができる。	1 後	30	1	○			○			○	
○			医療倫理	医療における倫理の重要性を理解し、医療従事者として日常業務における倫理的問題に関する知識、態度及び考え方を学ぶ。新しい医の倫理の原則、医療従事者に求められる心構えやインフォームドコンセントに基づいた患者対応、生命操作技術の発展に伴って新たに生じた倫理的諸問題を対象とする生命倫理を学ぶ。 ★仕上がり像 １ 医療倫理が成立してきた歴史を説明できる。 ２ 医療倫理・生命倫理の特徴を説明できる。 ３ 医療倫理の四原則、その他の原則の特徴を説明できる。 ４ 医師・患者関係の特徴を説明できる。 ５ インフォームドコンセントの定義と重要性を説明できる。 ６ 守秘義務と個人情報保護の重要性を説明できる。 ７ 倫理綱領の重要性を説明できる。	1 後	15	1	○			○			○	
○			体育	１　運動・スポーツを通して自己の健康保持・増進、体力の向上を習得します。 ２　各種目の練習、ゲームを通して他者とのコミュニケーションを図り、集団で運動・スポーツをすることの楽しさと意義を習得します。 ３　各種の技術と理論及びルールを習得します。 ★仕上がり像 １　仲間と協力し、安全に気をつけながら、運動・スポーツを楽しむことができる。 ２　各種の技術、理論、ルールを理解し、戦術・作戦を考え工夫することができる。 ３　体力の保持・増進ができ、体を動かすことの楽しさを知ることができる。	1 通	30	1			○	○			○	

○			身体の構造	解剖学は正常人体の構造を研究する学問である。人体がどのような器官・組織・細胞から成り立っていて、どのような構造をもっているか、肉眼レベル、顕微鏡レベルあるいは分子レベルで解明するもので、生理学とともに医学にとって欠くことのできない最も基本的な科目である。身体の構造では、特に顕微鏡レベルでの基本的な構造について学ぶ。プリントを用い教科書を補完する。 ★仕上がり像 １　人体の構造を頭の中でイメージできる。 ２　そのイメージを模式図で書くことができる。 ３　そのイメージを言葉で説明できる。	1 前	20	1	○			○		○		
○			解剖学	解剖学は人体の正常構造を知るための基礎的な学問です。人体には様々なはたらきがあり、病気になると、そのはたらきに異常が生じます。病気が生じる“場”としての人体の構造を理解することは患者を相手にする臨床医学の実践において非常に重要です。全20回の講義を通じて正常な人体 の構造に関する基本的知識を身に付けましょう。 ★仕上がり像 １　人体を構成する構造（臓器、器官、組織）を理解し、説明できる。	1 通	40	2	○			○			○	
○			形態・組織学実習	形態・組織学実習では実際の標本を顕微鏡観察し、スケッチをすることによって正常な組織の構造を理解し、その特徴をとらえることを目指します。光学顕微鏡の基本的操作はもちろんのこと、目的とする組織標本を提示できる手技を習得します。 ★仕上がり像 １　光学顕微鏡の手技を習得する。 ２　各臓器・組織等の基本構造を理解できる。 ３　各臓器・組織等の特徴を理解できる。 ４　HE染色の基本を説明できる。	1 通	30	1	△		○	○		○		
○			身体の機能	医学の基本となる生理学ですが、より分かりやすく臓器の働きについて学びます。正常な働きを理解し、相互関係を理解することで疾患を理解できます。より詳細な機能が明確になっている最近の医療において、マクロ的にそれぞれの器官の働きを理解することは重要です。 ★仕上がり像 １　血液の機能を十分に理解することができる。 ２　主な器官の働きを理解することができる。 ３　全体的な身体の機能を理解することができる。	1 前	20	1	○			○		○		
○			生理学	生理学は、医学の基礎となる「ヒトの生きる仕組み」を理解する重要な学問です。この授業では、 「身体の機能」で学ぶ各種生理機能に加え、調節系である神経系・感覚系および内分泌系の仕組み、 さらに運動系および生殖系についても学び、広く「ヒトの生きる仕組み」全体を理解します。 ★仕上がり像 血液、循環、呼吸、消化吸収、排泄、運動、生殖の各機能の理解に加え、これらの生理機能の調節系である神経・感覚系および内分泌系について理解し、自らの生活の中で起こっている現象について興味を持てるようになる。	1 通	40	2	○			○			○	
○			栄養と代謝	この授業は、専門的な内容である「生化学」の入門編にあたる講義です。皆さんは栄養について深く考えたことはありますか。身体にはどんな栄養が必要なのか、またどのように代謝されているのか。それを知ることが、病気と検査を知ることに繋がっていくのです。 高校で生物を履修したことがない人もあまり難しく考えず、普段自分が食べるものから、どのような栄養を摂取しているのか、それが身体のどこで何の役に立っているのかを学んでいきましょう。 ★仕上がり像 １　栄養素の種類とその働きを説明できる。 ２　糖質・脂質・蛋白質の生体内代謝をイメージし、概要を説明できる。 ３　生体内の栄養の不足および代謝と、疾患の関係を説明できる。	1 前	15	1	○			○		○		
○			生化学	生化学は生物の体内で起きているさまざまな生命現象を分子レベルで理解しようとする学問です。すなわち、生物を構成する物質（生体物質）の化学的性質を理解し、次に生体内で生じる変化を化学的視点から、物質の流れとして理解しようとするものです。生体物質である糖質、脂質、タンパク質、核酸などの構造と性質および代謝に関わる酵素について学びます。 なお、生化学は臨床検査技師にとって必須な臨床化学、生理学、血清学、薬理学などの分野を理論的側面から支えています。 ★仕上がり像 １　生体物質である糖質、脂質、タンパク質、核酸の構造と性質について理解できる。 ２　糖質、脂質、タンパク質、核酸の代謝について理解できる。 ３　酵素の諸性質について理解できる。	1 通	40	2	○			○		○		
○			病理学Ⅰ	基礎医学、つまり解剖学、生理学、微生物学、生化学の知識と、臨床医学の知識との橋渡しが病理学の役割です。臨床で経験する多くの疾患について、その病因、症状、検査、および治療について、細胞レベルで学びます。病理学Ⅰでは、細胞でみられる病理学的変化のメカニズムを習得します。 ★仕上がり像 １　正常の細胞と病的な細胞の違いについて説明することができる。 ２　細胞の病的変化について説明することができる。 ３　臨床でみられる主な疾患やその治療の基本を、細胞レベルで説明することができる。	2 前	30	1	○			○			○	

○			病理学Ⅱ	病理学Ⅰで学習した病理学的視点から、主な疾患を学びます。臓器別に、疾患の原因、症状、治療について細胞レベルで習得します。 ★仕上がり像 1　重要な疾患の成り立ち、変化、治療法について細胞レベルで説明することができる。 2　細胞の病的変化が組織像におよぼす影響を説明することができる。 3　主な治療法（薬物、放射線など）が細胞に引き起こす影響を説明することができる。	2 後	30	1	○			○			○	
○			免疫学	免疫とは自己と非自己を識別し、自己の個体としての独立性を守る機構です。感染症に対してどのように身を守っているか、その構成員個々の役割・相互作用等について理解します。 ★仕上がり像 1　生理機能としての免疫とは何かを理解する。 2　免疫担当細胞の機能を理解する。 3　各種免疫検査法による免疫機能の測定を理解する。	1 後	30	1	○			○			○	
○			微生物学	細菌の構造と機能、生理、遺伝などの細菌検査の基礎となる事項を学びます。感染症を（病原）微生物、感受性のある宿主、感染経路の三要素に分けて考える必要性を学びます。院内感染や新興・再興感染症など、社会的に問題となっている感染症とその対策について学びます。感染症に対する化学療法（抗菌薬）、および抗菌薬耐性菌について学びます。 ★仕上がり像 1　細菌、真菌、ウイルスの違いを説明できる。 2　グラム陽性・グラム陰性、好気性菌・通性嫌気性菌・偏性嫌気性菌について説明できる。 3　抗菌薬の種類、および抗菌薬耐性菌の耐性機構と出現機構について説明できる。 4　院内感染対策における臨床検査技師の役割について述べることができる。	1 通	30	1	○			○			○	
○			ウイルス学	ウイルスに関する基礎知識を習得し、各ウイルスによる疾患の臨床症状と疫学を理解し、各ウイルス疾患の診断法、予防法、治療法等を学ぶ。 ★仕上がり像 1　ウイルスとはなにかを把握する。 2　ウイルスによる疾患の臨床症状と疫学を知る。 3　各ウイルス疾患の診断法、予防法、治療法を理解する。	2 通	30	1	○			○			○	
○			薬理学	薬理学の目的は薬の作用機序を明らかにし、適切な治療に応用することです。臨床検査技師は実際に薬剤を扱うわけではありませんが、医療従事者として薬剤がどこに、どのように作用するか理解することを目的としています。薬理学は、生理学・生化学・解剖学など、基礎的な全ての学問に関連します。薬理学で学んだことは他の科目でも必ず活かされることとなりますのでしっかり身に付けてください。 ★仕上がり像 1　薬物の生体に対する作用および副作用、その作用機序の概要を説明できる。 2　各疾患名について、その病態を説明できる。	2 後	15	1	○			○		○		
○			保健医療福祉概論	人間の生命について相対的な理解を深め、社会生活を支えるうえで必要な倫理を学びます。その際、日本が行ったハンセン病患者に対する人権侵害の歴史をケースとして取り上げます。また、現在日本における少子高齢社会の現状・課題を人口構造を手掛かりに理解を深め、その支える主な社会福祉制度について理解を深めます。 ★仕上がり像 1　社会福祉の重要な価値・倫理を理解する。 2　ハンセン病患者に対する人権侵害の理解を深めつつ、今後私たちにできることを考えれる。 3　少子高齢社会に対する現状・課題を整理し、それに対する主要な社会資源について理解する。	2 通	15	1	○			○			○	
○			公衆衛生学	公衆衛生を通じて、人口動態・疾患（生活習慣病や感染症）などの疫学を学びます。そのためには原因、経過、対策、予防を追及し理解することが重要です。この授業の目的は基礎知識の習得のみならず、医療従事者として応用行動することができる人材育成を含んでいます。エイズ、集団食中毒、結核などの感染症、肝炎ウイルスなどの医療感染、院内感染などの問題が多い現世で、疫学から動態を知り、それらの問題点を各論で学び基礎的概論を身につけることを目標とします。 ★仕上がり像 1　公衆衛生の概念を理解し、幅広い考え方を持つことができる。 2　医療行為上問題となる疾病に対し対処することができる。 3　基礎的知識を活用し、医療従事者として責任を果たせる。	1 前	30	1	○			○			○	
○			環境衛生学	地球温暖化や大気汚染、水質汚濁など環境破壊は人間の生活に大きな影響を与えるため、環境保全は現代社会では急務の課題となっています。この授業では、人の活動に起因するこれらの環境の悪化や気候変動につて、自然環境や社会環境の面から原因や評価手法を学びながら、今後どのように保全していけばよいのかを理解することを目標とします。 ★仕上がり像 1　代表的な地球環境問題について、その現状と対策を説明することができる。 2　自然環境の人為的変化が人体に及ぼす影響を列挙し、その概要を説明することができる。 3　水質の汚染物質と代表的な測定方法、評価指標を列挙することができる。 4　主要な産業災害について労働環境と関連付けながら説明するができる。 5　環境問題に関する自分の考えを整理し、述べることができる。	1 後	15	1	○			○			○	

○			公衆衛生学特論	公衆衛生学の理論と実際について、疫学的方法論によるアプローチ、公衆衛生行政のあり方、地域医療と健康増進、地域における感染予防対策等の問題解決法を習得します。また、国家試験問題を分析し出題される項目や重要ポイントについて理解を深めます。 ★仕上がり像 １　わが国の医療保険制度の仕組みを学び、各保険者の種類や給率について理解できる。 ２　健康・疾病・障害と生活の関わりの基礎的な概念がわかる。 ３　国家試験問題を分析し、解答を導き出すことができる。	3 後	15	1	○			○		○		
○			情報科学	近年の高度医療化傾向は、従来の医学固有の技術のみならず周辺領域の科学技術によって支えられている。特に急速な発展を遂げているＩＴ技術はその代表である。 分析機器などはシステム化されコンピュータに接続されている。分析機器を扱うこと自体がコンピュータを操作することと言っても過言ではない。この授業では基礎理論や仕組みを学び情報処理に必要な知識や応用力を身につけて関係情報を適切かつ迅速に扱え、専門の業務遂行に役立たせるための学習をします。 ★仕上がり像 １　コンピュータの知識を応用でき、就職した先で役立たせることができる。 ２　臨床検査技師の国家試験問題で情報関連問題を難なく解くことができる。	1 前	30	1	○			○			○	
○			情報科学実習	講義で学んだ知識を実際に実習で確かめ、より確実なものとします。この授業ではキーボードやマウスの操作から始まり、将来の仕事に活用できるよう、日本語ワープロ＜Word＞、表計算ソフト＜Excel＞、プレゼンテーションソフト＜PowerPoint＞の操作を演習を通して学び、情報処理に必要な技能や応用力を身につけます。また、IT時代には欠かせないインターネットでの情報検索方法やVBAを使ったプログラミングも学びます。 ★仕上がり像 １　初めての人でもパソコンを操作することができるようになる。 ２　Word、Excel、PowerPointを使いこなすことができるようになる。 ３　インターネットなども活用でき、情報検索や処理ができるようになる。 ４　職場でパソコンを利用し，専門の業務に役立たせることができるようになる。	1 通	30	1	△		○	○			○	
○			医用工学	様々な検査機器について理解するため、その基礎となる電気工学、増幅器やトランスデューサ（センサ）の基本原理、検査機器の構成や取扱い、安全の確保について理解する。 ★仕上がり像 １　フィルタ回路の役割が理解できる。 ２　遮断周波数と時定数の関係が理解できる。 ３　測定に用いられるトランスデューサ（センサ）の原理や構造が理解できる。 ４　医療機関で安全確保のための方法や基準値を知り、点検ができる。	2 通	30	1	○			○			○	
○			医用工学論	現代の医療はＭＥ技術、機器の支援がなくては成り立たない状況となっています。そして医療が現在のように発展した一因は、特にコンピュータとＭＥ機器を抜きにしては考えられません。ＭＥ機器を適正かつ安全に使用し、保守管理を行えるかが、今後の臨床検査技師の重要な仕事になります。そのために、各種ＭＥ機器の原理およびその基礎となる電気やコンピュータの知識を学びます。また、国家試験によく出題される事項を中心に学びます。 ★仕上がり像 １　各種ＭＥ機器の保守管理を適切に行うことができます。 ２　各種ＭＥ機器の原理を理解し、安全に操作することができます。 ３　医療情報システムの知識を応用でき就職先で、臨床検査技師としての役割を果たせます。	3 後	20	1	○			○			○	
○			臨床医学総論Ⅰ	臨床医学総論Ⅰと臨床医学総論Ⅱを合わせて、臨床検査に必要な重要疾患およそ２００種類について、その病因、診断、経過、治療について学びます。とくに臨床において必要とされる医学知識を学びます。対象となる疾患は、心臓から消化器まで、医療機関でみられる主要な疾患を習得します。 ★仕上がり像 １　主要な疾患について、その病因と病態を説明することができる。 ２　主要な疾患について、その診断と治療について説明することができる。 ３　疾患どうしの関連（併発する疾患）を説明することができる。	1 後	15	1	○			○			○	
○			臨床医学総論Ⅱ	臨床医学総論Ⅱでは人体に生じうる主な疾患とその検査法についておのおのの疾患ごとに説明する。人体の疾患は無数に存在するが、人体の活動に必要な機能に関連する臓器が失調した場合のみが治療の対象となる。したがって、各臓器のもつ人体における役割を知ることで、どの臓器にどのような障害が生じた場合、臨床上問題になるかを理解することが可能となり、検査上の異常がいかなる形で出現するかを予想することもできる。 ★仕上がり像 １　各臓器が人体全体の活動においてなしている役割を説明できる。 ２　各臓器の失調がどのような障害、つまり疾患をもたらすかを説明できる。 ３　各臓器の失調を早期に発見する検査方法とその根拠を説明できる。	2 前	30	1	○			○			○	

○			臨床病態学	一般目標（GIO）：臨床検査技師として検査を行う上で必要とされる解剖、生理、病理、生化学的な知識を修得し、病態と検査の関連づけを構築する。 ★仕上がり像 行動目標（SBOs）： １　人体の解剖学的な解説ができる。 ２　人体の生理的な解説ができる。 ３　1，２を生化学、免疫学、血液学的分野に応用し説明できる。 ４　検査値の意味を説明できる。 ５　各検査の方法、臨床的意義、解釈、他の検査との関連性を示すことができる。 ６　上記1～5の各行動目標（SBOs）中の「解説、説明」が、発言、筆記、口演発表、国家試験の解説、毎授業時に行われる確認試験など多様な方法で発揮できる。	2 通	30	1	○			○			○	
○			遺伝病学	最近の分子遺伝学の発展はめざましいものがあり、特に分子生物学をベースにした遺伝学の知識も医学にどんどん入ってきています。この授業では、臨床検査技師を目指す学生に分子生物学の知識をふまえたヒトの染色体と遺伝子疾患の基礎知識を理解させることに重点をおきます。 ★仕上がり像 １　分子生物学をベースとした遺伝医学を理解することができる。 ２　ヒトの染色体と遺伝子疾患を理解できる。	1 後	15	1	○			○			○	
○			臨床検査学演習	医療を取り巻く環境は日々変化し、その技術も進歩し続けています。もちろん、臨床検査技師の資質向上も求められており、教科書で学んだことをどのように応用していけるかが問われています。 本講義では、各専門科目で学んだことを、実際の臨床現場で活用していくにはどのようにすればよいのか、データの読み方を通して学んで行きます。 ★仕上がり像 １　検査データからさまざまな情報を推測することができる。 ２　治療過程におけるデータの変化を考えることが理解できる。 ３　臨床検査技師として必要な資質は何かを考えて、その業務が果たせる。	3 通	60	2	△	○		○		○		
○			医動物学	医動物学は医学的に有害な動物を対象とする学問です。人体寄生虫や感染症を媒介する昆虫など対象は広範囲に渡ります。授業では人体寄生虫を中心に、正確な基礎知識の習得を目的とし、さらに世界や日本における諸問題に対して、的確に対処する力を養うことをねらいとしています。 ★仕上がり像 １　国内における医動物学的諸問題について、正確な知識を持っている。 ２　臨床医学の場で適切な医動物学的サポートができる。	1 後	30	1	○			○			○	
○			病理組織細胞学	病理組織学的検査においては、組織標本の作製は必要不可欠です。標本作製には正確な知識と技術が求められます。この授業ではパラフィンブロック標本を用いる検査を主体に、様々な標本作製方法について学びます。 細胞学的検査においては、その歴史と役割を正しく把握することが重要です。加齢とともに変わる内分泌、感染症腫瘍性病変などと様々な細胞像がみられる女性性器の細胞診は、日常検査で最も検体数が多くなっています。呼吸器細胞診断は次いで数の多いものです。授業ではこれらを主体に学びます。 ★仕上がり像 １　病理組織標本作製・電子顕微鏡標本作製の基礎が理解できる。 ２　細胞診標本作製の基礎が理解できる。 ３　細胞の種類、微細構造、細胞間物質の種類と役割を理解できる。	2 通	30	1	○			○			○	
○			病理組織細胞学 実習Ⅰ	この授業では、病理学検査の主な標本作製技術と基本的な染色技術を学びます。病理学検査は決められた厚さに薄切、気温や時間などを考慮しての染色など、正確な知識と技術が求められる分野です。本実習では、標本作製方法のなかで最も一般的なパラフィン包埋標本の作製法について学びます。また、基本的な染色であるヘマトキシリン・エオジン染色（ＨＥ染色）や膠原線維の染色について学んでいきます。 ★仕上がり像 １　切り出しからパラフィン包埋標本作製の流れを理解できる。 ２　ミクロトームを利用した薄切操作が実施できる。 ３　検査に必要な染色のなかで、ＨＥ染色、膠原線維の染色を実施できる。	2 前	30	1	△		○	○		○		
○			病理組織細胞学 実習Ⅱ	この授業では病理組織細胞学実習Ⅰに引き続き、病理学検査における特殊染色について学びます。染色工程の正確な理解を目標に実習しましょう。 細胞学的検査（細胞診）においては、最も普及しているパパニコロウ染色の原理を理解するとともに、正しい染色技術を学びます。また様々な症例の腫瘍病変の細胞像を観察し、病理組織診断と細胞像の比較や特徴を学びます。 ★仕上がり像 １　標本作製に必要な染色のなかで、多糖類の染色、免疫組織化学的染色を実施できる。 ２　細胞学的検査において、パパニコロウ染色を実施できる。 ３　細胞学的検査において、様々な疾患の細胞学的特徴を理解できる。	2 通	45	1	△		○	○		○		
○			臨床血液学Ⅰ	臨床検査における血液検査学の領域は、その大部分を血球形態系と血液凝固系が占めており、基礎となる学問を理解していなければ臨床的にデータを判断することはかなり難しくなります。 本講義では、臨床血液学Ⅱ（２年次前期科目）で学ぶ内容（各検査結果の評価など）を理解するために必要な事柄を学び、下記の仕上がり像を目指します。 ★仕上がり像 １　血球の産生と崩壊、形態と機能など基礎的内容について述べるができる。 ２　止血機構、血液凝固と線溶それぞれの機序について述べることができる。 ３　血球および形態に関する検査についての手技と臨床的意義について述べることができる。	1 後	30	1	○			○		○		

○			臨床血液学Ⅱ	臨床検査における血液検査学の領域は、その大部分を血球形態系と血液凝固系が占めており、基礎となる学問を理解していなければ臨床的にデータを判断することはかなり難しくなります。 本講義では、血液疾患（貧血、白血病、出血傾向）などにおける血液検査の基礎から応用までを多角的に考えていき、理解を深めていきます。 ★仕上がり像 １　止血、血液凝固と線溶に関する検査についての手技と臨床的意義について述べることができる。 ２　検査で得られた情報の解析から各種疾患との関連について述べることができる。 ３　基本的な先天性異常と白血病等における染色体異常の基礎、検査について述べることができる。	2 前	30	1	○			○		○		
○			臨床血液学実習Ⅰ	この授業では、臨床血液学の基本である血球に関する検査を勉強します。臨床では自動血球計数装置による検査となりますが、本授業における用手法により自動血球計数装置による測定原理の理解を深めます。また血球濃度やヘマトクリット値の測定などにより貧血のタイプの判定方法（赤血球の大小、赤血球に含まれるヘモグロビン濃度の高低）を学習します。 ★仕上がり像 １　血球数のカウントに関する器具の使用法、計算方法を理解し正確な結果を得られるようになる。 ２　血球数のカウントに関する結果の判定方法を理解できる。	2 前	30	1	△		○	○		○		
○			臨床血液学実習Ⅱ	この授業では、白血球の系統を分類し血液疾患を検索する検査と血液凝固の検査に関連する実習を行います。それに伴い、実際に臨床現場で行われている疾患の鑑別に関わる知識を身に付けます。また、赤血球系の特殊検査等についても理解します。臨地実習等で患者検体の所見を見るためには、正常の所見の理解が不可欠です。正しい検査技術を身に付け、正確な結果を出すまでの過程を身に付けます。 ★仕上がり像 １　血球が持つそれぞれの酵素を理解し、特殊染色の結果により血球の系統を分類できる。 ２　凝固のカスケードを理解し、各凝固系検査の臨床的意義を説明できる。 ３　それぞれの検査結果と疾患との関わりが説明できる。	2 通	45	1	△		○	○		○		
○			病理検査学	病理検査をおこなうためには、人体の解剖学的な理解、適切な標本作製のための技術が必要です。この授業においては、人体の構造と機能についての知識を再確認し、臨床で用いられている標本作製方法について学びます。また基本的な病理学知識について復習することにより、国家試験問題の理解を深めることができます。 ★仕上がり像 １　病理検査に必要な解剖学的知識が理解できる。 ２　目的に適した病理組織標本を作製するための知識について理解できる。 ３　総合的な見方で国家試験問題にアプローチし解答を導くことができる。	3 通	30	1	○			○		○		
○			血液検査学	臨床検査における血液検査学の領域は、その大部分を血球形態系と血液凝固系が占めており、基礎となる学問を理解していなければ臨床的にデータを判断することはかなり難しくなります。また、臨床検査技師養成学校において学ぶべきことは、国家試験問題として出題されており、それを分析し理解することも臨床検査技師に求められる資質といえます。 本講義では、血液検査の基礎から応用までを演習を交えて多角的に考えていき、国家試験問題の理解を深めていきます。 ★仕上がり像 １　血球の形態異常や血液凝固の機序を考え、その異常と疾患との関連がわかる。 ２　血液学的検査に必要とされる手法とその原理、特徴をとらえることができる。 ３　総合的な見方で国家試験問題にアプローチし解答を導くことができる。	3 通	30	1	○			○		○		
○			臨床検査総論Ⅰ	臨床検査総論は臨床検査技師を目指す学生が最初に学ぶ専門科目です。基本的には、尿検査、便検査、髄液検査等の、いわゆる一般検査といわれる誰もが良く知っている検査部門を中心に学ぶのですが、その測定方法や原理を学ぶ時、他の専門科目の知識が広く求められます。生化学、血清学、細菌学、血液学の基礎知識も要求されます。又、検体の採取方法や保存方法、精度管理の基本も学びます。臨床検査総論を学ぶ事により、医療現場における臨床検査技師の役割と使命、そして臨床検査技師に必要な基本事項やチーム医療等、医療の現場で実際に役立つ知識を幅広く身につけます。 ★仕上がり像 １　広く各検査の重要性を理解することができる。 ２　各検査の原理を熟知しなければ、大きな過誤を犯すことを理解することができる。 ３　各検査材料（検体）の正しい取り扱いや検査法を理解することで、技師としての役割りを果たすことができる。	1 前	30	1	○			○			○	

○			臨床検査総論Ⅱ	臨床検査総論は臨床検査技師を目指す学生が最初に学ぶ専門科目です。基本的には、尿検査、便検査、髄液検査等の、いわゆる一般検査といわれる誰もが良く知っている検査部門を中心に学ぶのですが、その測定方法や原理を学ぶ時、他の専門科目の知識が広く求められます。生化学、血清学、細菌学、血液学の基礎知識も要求されます。又、検体の採取方法や保存方法、精度管理の基本も学びます。臨床検査総論を学ぶ事により、医療現場における臨床検査技師の役割と使命、そして臨床検査技師に必要な基本事項やチーム医療等、医療の現場で実際に役立つ知識を幅広く身に付けます。臨床検査総論Ⅱでは尿中の細胞の詳細や糞便検査、髄液検査など各種検査材料の具体的な検査方法について学びます。 ★仕上がり像 １　広く各検査の重要性を理解することができる。 ２　各検査の原理を熟知しなければ、大きな過誤を犯すことを理解することができる。 ３　各検査材料（検体）の正しい取り扱いや検査法を理解することで、技師としての役割りを果たすことができる。又、顕微鏡を使用した形態検査の基礎についても理解を深めることができる	1 通	30	1	○			○			○	
○			一般検査学実習	一般検査、特に尿検査は検体採取が容易で、簡便な試験紙法が充実しているため、スクリーニング検査として様々な場面で重宝される検査です。しかし簡便な操作は、原理を熟知して取り組まなければ大きな誤りを招く事になります。本実習では、これらの原理を学び正しい測定方法を身に付けるとともに、尿沈渣など高度な検査について学びます。検体採取も臨床検査技師の業務の一つであり、近年では臨床検査技師が採血に携わる施設も増えてきました。本実習では正しい採血手技を習得します。そのほか2015年より採取が可能となった鼻腔拭い液の採取方法についても学びます。 ★仕上がり像 １　各検査材料を適切に取り扱うことができる。 ２　各検査の原理を理解し、正確な検査結果を出すことができる。 ３　検査目的に応じた検体採取（採血）を実施することができる。	1 通	45	1	△		○	○		○		
○			臨床化学Ⅰ	臨床化学は検査学を代表する学問であり、その基礎には化学や分析学だけではなく、生理学や免疫学など要素も含まれています。また、それを理解するためには、物理学、工学、数学の知識も不可欠であり、他の科目と関連付けながら学んでいくことが必要と考えます。 本講義では、検査計画から検査精度の管理や保証、薬品の濃度に関する基本知識を確認した上で、様々な分析法の基本原理について学びます。さらに、それらが実際に臨床現場でどのように利用されているかを紹介していきます。 ★仕上がり像 １　臨床化学分野で用いられる様々な計算ができる。 ２　基本となる分析法の原理がわかる。 ３　臨床検査に応用されている分析法と測定項目をイメージすることができる。	2 前	30	1	○			○			○	
○			臨床化学Ⅱ	臨床化学で分析する項目は多岐にわたっており、検査データを理解するには生体内の反応をしっかり頭に入れ、いろいろな可能性を考えていく必要があります。 本講義では、血液中のさまざまな化学成分の代謝や生体内での働きを確認し、疾患と検査データとの関連を学んでいきます。また、疾患以外でデータに異常をきたす原因にはどんなものがあるのかを同時に考えていきます。 ★仕上がり像 １　生体内の化学成分の代謝と機能がわかる。 ２　検査データに異常を来す病態を考えることができる。 ３　検査データをさまざまな角度から判断することができる。	2 後	30	1	○			○			○	
○			臨床化学実習Ⅰ	臨床化学検査は体液中の成分を化学的手法によって分析し、病気の診断や治療に必要なデータを提供するものです。 本実習では、臨床で利用されている測定法の基本原理を確認し、実際の検査を通して臨床検査技師として必要とされる知識と技術を身につけていきます。また、正しいデータを提供するために必要な配慮や、数値から知ることができる様々な生体情報についても学んでいきます。 ★仕上がり像 １　検査の準備から測定後のデータの処理、消毒･洗浄などの一連の検査作業が身につく。 ２　目的成分の化学的性質と測定法の特徴を理解して、データーを提供できる。 ３　検査データの異常を見極め、その原因を考えることができる。	2 前	30	1	△		○	○		○		
○			臨床化学実習Ⅱ	臨床検査において、どんなに優れた分析方法を用いても、測定時に一定の条件が保たれていなければデータの信頼性は失われてしまいます。 本実習では目的成分の測定法を学ぶだけではなく、測定条件を変化させて検査結果に与える影響を確認することで、さらに理解を深めていきます。また、入手したデータを様々な角度から分析し、疾患を総合的に考えていきます。 ★仕上がり像 １　測定に利用する酵素の性質がわかる。 ２　反応原理を理解し測定条件を設定することができる。 ３　測定の背景を理解した上で検査データの正しい判断ができる。	2 通	45	1	△		○	○		○		

○			遺伝子・染色体検査学	近年のめざましい遺伝情報解析技術の進歩とそれに伴う研究成果により、染色体や遺伝子の変化と病気の原因や治療法との関係が明らかになりつつある。その解析技術が臨床検査の場でも用いられるようになり、病態診断、予後予測、薬物効果の予測やモニタリングなどにおいて必要不可欠な検査となっている。ここでは、遺伝子・染色体の基礎について、さらにその検査技術の原理と実際について、また遺伝情報の倫理的取り扱いについ講義する。 ★仕上がり像 １　遺伝と染色体・遺伝子について理解する。 ２　染色体と染色体の構造変化、染色体変化に関する疾患、染色体の検査法について理解する。 ３　遺伝子と遺伝子変化、遺伝子変化に関する疾患、さらに遺伝子の検査法について理解する。 ４　遺伝情報の倫理的取り扱いの重要性について理解する。	2 後	15	1	○			○		○		
○			遺伝子検査学実習	遺伝子検査学実習では、ＤＮＡの異常や変異の検査法を実践的に学びます。遺伝子検査の基礎知識の整理として、ＤＮＡの抽出法、ＰＣＲ法の原理、アガロースゲル電気泳動等の技術を習得します。遺伝子検査（各手技）の意味を理解し、応用できる知識を身につけることを目指します。 ★仕上がり像 １　遺伝子検査の基本を理解し、ＤＮＡの抽出・増幅・分析操作を行うことができる。 ２　遺伝子変異を確認するための制限酵素について理解することができる。 ３　肺炎球菌の薬剤耐性遺伝子を理解することができる。	2 通	30	1	△		○	○		○		
○			一般検査学	一般検査学として、生物化学分析検査学(臨床検査総論）、形態検査学(医動物学）について、実際の検査方法および判定の仕方を理解し、臨床的意義についても理解します。国家試験に出題される項目に対応できるよう重要ポイント、重要語句の確認をします。 ★仕上がり像 １　主な一般検査方法について理解できる。 ２　一般検査項目の臨床的意義について理解できる。 ３　主な寄生虫の特徴、検査法について理解できる。 ４　検査管理の概要と臨床との関わりを理解できる。 ５　遺伝子の基本が理解できる。	3 通	30	1	○			○		○		
○			分析検査学	臨床検査における生物化学分析検査学の領域は、その大部分を臨床化学検査が占めており、基礎となる学問を理解していなければ臨床的にデータを判断することはかなり難しくなります。また、臨床検査技師養成校において学ぶべきことは、国家試験出題基準にも示されており、国家試験問題を分析し理解することも重要な学習であるといえます。 本講義では、生化学・生理学分野の復習をしながら、分析検査の基礎から応用までを演習を交えて多角的に考えていき、同時に国家試験問題の理解も深めていきます。 ★仕上がり像 １　生体内の化学成分の代謝と機能を考え、その異常と疾患との関連がわかる。 ２　分析に必要とされる手法とその原理、特徴をとらえることができる。 ３　総合的な見方で国家試験問題にアプローチし解答を導くことができる。	3 通	30	1	○			○		○		
○			臨床微生物学	感染症の診断は、まずその疾患が感染症であることの認識を行うとともに、それが一体いかなる病原体によるものかを正しく診断する必要がある。臨床微生物学では起炎微生物の生化学的性状やその病原性を理解し、またその微生物に有効な薬剤を学びます。(国家試験に対する知識を含む） ★仕上がり像 １　細菌検査の染色法や培養法を説明することができる。 ２　細菌とその抗菌薬について関連付けることができる。 ３　細菌の形態的特徴や生化学的性状を説明することができる。	2 前	30	1	○			○		○		
○			臨床微生物学実習Ⅰ	臨床微生物学実習Ⅰでは、感染・免疫基礎実習で習得した基本的手技をもとに、さらに臨床微生物検査の知識と技術を固めていきます。また、その基礎知識を応用し、グラム陽性球菌の同定検査の手法とその流れを理解します。 ★仕上がり像 １　微生物検査の基礎技術を習得することができる。 ２　グラム陽性球菌の形態的特徴や生化学的性状を理解することができる。 ３　グラム陽性球菌の同定検査の流れを理解し､菌名を推定することができる。	2 前	30	1	△		○	○		○		
○			臨床微生物学実習Ⅱ	臨床微生物学実習Ⅱでは、微生物学・臨床微生物学講義および臨床微生物学実習Ⅰで習得した基礎知識を生かし、病態を的確に把握する為の臨床検査技術を学びます。病原微生物を中心に微生物検査の検査手法とその流れを理解します。 ★仕上がり像 １　グラム陰性桿菌の形態的特徴や生化学的性状を理解することができる。 ２　グラム陰性桿菌の同定検査の流れを理解し､菌名を推定することができる。 ３　主な病原微生物の増殖機構、培養方法について説明することができる。 ４　薬剤感受性試験の検査法に関する知識と技術を習得することができる。	2 通	45	1	△		○	○		○		
○			臨床免疫学Ⅰ	細菌、ウイルス感染症、感染症に対する生体防御、ならびに感染症の診断について学びます。 ★仕上がり像 １　感染症とその診断について理解します。 ２　感染症に対してヒトはどのように防御しているか理解します。	2 前	15	1	○			○			○	

○			臨床免疫学Ⅱ	アレルギー、自己免疫疾患、癌などの検査ならびに移植に際して副反応を抑えるための検査について理解します。 ★仕上がり像 アレルギー、癌、自己免疫疾患の診断ならびにHLA検査について理解できる。	2 後	30	1	○			○			○	
○			感染・免疫基礎実習	微生物学・免疫学検査は感染症などの診断や経過を観察する上で重要な検査です。感染に注意して作業することが最も重要です。また、基礎的な手技の習得が必要です。感染を理解し、適切な手技が行えることを目標とします。 ★仕上がり像 １　感染について理解し、注意することができる。 ２　微生物検査の基本的な技術を身につける。 ３　免疫検査の基本的な技術を身につける。	1 通	30	1	△		○	○		○		
○			臨床免疫学実習Ⅰ	免疫学検査は感染症や自己免疫疾患などの診断や経過を観察する上で重要な検査です。近年、免疫学検査においても機械化が進み、機械測定される項目も少なくないですが、本実習では免疫学検査で必要な基本的手技を学びます。高度な技術は正確で迅速な検査結果につながりますので、基本的操作の意味をしっかり理解します。また、目的の検査項目の臨床意義について理解します。 ★仕上がり像 １　免疫検査学の基本原理について理解できる。 ２　免疫検査学の基本的な技術を身につける。 ３　基本的な免疫検査の臨床的意義について理解できる。	2 前	30	1	△		○	○		○		
○			臨床免疫学実習Ⅱ	現在の免疫学検査では、非標識、標識検査によりより感度の良い検査が行われています。機械測定されている検査についてその原理を知り、診断経過観察に役立てます。本実習で学ぶ感染症についてはその検査手技もさることながら検査意義が重要です。さらに自己抗体蛍光抗体法や免疫電気泳動などはその型を分類し判定することで診断、治療に影響を与えますので、検査手技、原理、判定基準を身につけます。 ★仕上がり像 １　免疫検査学の基本原理について理解できる。 ２　免疫検査学の基本的な技術を身につける。 ３　基本的な免疫検査学の臨床的意義について理解できる。	2 通	45	1	△		○	○		○		
○			輸血・移植検査学	輸血療法は血液の移植と考えられ、リスクを伴う療法です。私たち臨床検査技師はそのリスクを最小限に抑えるため、輸血に必要な血液型の基礎知識について学び、検査の臨床意義、原理について理解します。また、医療機関においては輸血センターの設立が進み、臨床検査技師が中心となってその責任を負っています。そのため、血液製剤の納品、発注、管理など事務的な対応も必要です。安全で適正かつ有効な血液製剤の提供ができるよう学びます。 ★仕上がり像 １　輸血検査学の基礎知識について説明できる。 ２　輸血療法のリスクと効果について挙げることができる。 ３　輸血検査の原理、手技について説明できる。	2 通	30	1	○			○		○		
○			輸血検査学実習	輸血療法は血液の移植と考えられ、リスクを伴う療法で、正確かつ迅速さが要求されます。本実習では輸血検査に必要な血液型の基礎知識、検査の意義、原理についての理解を深めます。さらに実際の検査手技の習得、判定の正確な基準について身につけます。また、検査の結果を正しく判断し、安全な輸血製剤の提供について理解します。 ★仕上がり像 １　血液型、不規則抗体について説明できる。 ２　輸血検査の基本的な操作ができる。 ３　反応態度から判定ができる。	2 通	30	1	△		○	○		○		
○			微生物検査学	微生物検査学では１年次および２年次で学んだ知識の整理を行います。微生物検査を行うためには微生物の形態や生化学的性状、染色法や培養法など様々な知識が必要とされます。また、それらは国家試験にも出題されますので、国家試験問題にも対応できるよう理解を深めていきます。 ★仕上がり像 １　細菌検査の染色法や培養法を理解することができる。 ２　細菌の抗菌薬について理解することができる。 ３　細菌の形態的特徴や生化学的性状を理解することができる。	3 通	30	1	○			○		○		
○			免疫検査学	免疫の仕組みを理解し、担当細胞の働き、特徴を知ることは臨床的意義を理解し、検査をするうえで重要です。さらに最近になって、遺伝子の解析が進み様々なことがわかってきています。免疫システムとそのシグナルについてが解析され、治療にも使われるようになっています。国家試験対策としても重要な事項になってきています。 ★仕上がり像 １　免疫の仕組み(抗原、抗体、補体、免疫担当細胞など）について理解できる。 ２　主な免疫検査法について理解できる。 ３　重要語句について理解できる。	3 通	30	1	○			○		○		

○			臨床生理学Ⅰ	生理機能検査の中心となる循環機能検査の中で最も臨床検査技師が行うことが多い心電図検査について勉強をします。心電図検査は健康診断から心筋梗塞などの緊急対応を必要とする疾患の診断まで広く活用される検査です。臨床検査技師はこの検査結果を一番最初に確認する役割となるため 心電図判読の知識は必須であり、そのための基礎的知識を学びます。 ★仕上がり像 １　心臓の構造・機能と心電図発現機構を関連づけることができる。 ２　心電図波形の成り立ちと誘導法を理解し説明することができる。 ３　正常心電図を理解し異常心電図と区別することができる。	1 通	15	1	○			○		○		
○			臨床生理学Ⅱ	心電図検査は循環器検査の最前線であり最初に検査結果を見るのは臨床検査技師であり、患者の生死を争う場面では臨床検査技師の技量が直接生死にかかわります。本講義では異常心電図を中心に循環器疾患と心電図の関連、重要性について学びます。 ★仕上がり像 １　心電図と循環器疾患の関連について説明できる。 ２　致死的な心電図所見について判別し対処できる。	2 前	30	1	○			○			○	
○			臨床生理学Ⅲ	生理機能検査の中の呼吸器系の検査、神経・筋機能検査、感覚機能検査を学びます。特に臨床的なものと実際の検査に関係するものとの２つに分けて講義をします。 ★仕上がり像 １　呼吸器疾患や神経・筋疾患を理解することができます。 ２　病院等で実際に行われている検査が理解できます。 ３　各疾患の臨床像を把握し、正しい検査結果を出すことによりＭＴとしての責務を果たせます。	2 通	30	1	○			○			○	
○			臨床生理学Ⅳ	近年の医学のなかでも画像診断技術の進歩発展による検査装置の精度が向上したことと、患者様への弊害がない利点のため、診療部門での画像検査が急速に増加しています。超音波を用いた超音波検査、核磁気共鳴現象という物理現象を応用したＭＲＩ、体表面の温度分布を画像表示するサーモグラフィの原理・理論・検査について学びます。 ★仕上がり像 １　各画像検査の原理・基礎を理解することができます。 ２　健常な画像と疾患の画像を把握できます。 ３　画像診断ができることで、治療効果判定や疾患の診断の役割を果たせます。	2 通	30	1	○			○			○	
○			臨床生理学実習Ⅰ	臨床生理学実習Ⅰでは生理機能検査のなかの心電図検査、運動負荷心電図検査、脈波検査、呼吸機能検査を学びます。検査する側、検査を受ける側の両方を体験することで、気をつけなければならないことなど、患者さんへの接し方も学びます。また、循環器検査、呼吸機能検査の理解を深め、実際の検査を通して臨床検査技師として必要とされる知識と技術を身に付けていきます。 ★仕上がり像 １　心電図のアーチファクトを理解し、きれいな心電図波形を記録することができる。 ２　脈波検査の意義を理解し、自動血圧脈波検査を実施することができる。 ３　運動負荷心電図検査の意義と注意事項の説明ができ、実際に検査を行うことができる。 ４　換気機能検査を実施することができ、また最も適切な測定結果を採択できる。	2 通	30	1	△		○	○		○		
○			臨床生理学実習Ⅱ	臨床生理学実習Ⅱでは生理機能検査のなかの脳波検査、誘発脳電位検査、筋電図検査、眼底検査、味覚検査を学びます。これらの検査で適切な検査結果を得るためには、患者さん側の検査に対する理解と協力も必要になります。基本的な知識と技術を身に付けると同時に患者さんへの配慮についても考えられる検査者になることを目標とします。また、心電図検査の実技確認テストを行い、臨地実習への準備をします。 ★仕上がり像 １　脳波検査を実施することができる。 ２　誘発脳電位検査を実施することができる。 ３　筋電図検査を実施することができる。 ４　眼底検査を実施することができる。 ５　電気味覚検査を実施することができる。 ６　心電図検査を実施することができる。	2 通	45	1	△		○	○		○		
○			臨床生理学実習Ⅲ	超音波検査は人体のあらゆる部位に対して行われています。スクリーニング検査や癌の早期発見、腫瘍の良悪性の鑑別などにも使われますが、検査を実施する技師には、解剖学的知識、技術、経験の３要素が求められます。本実習では、超音波診断装置の正しい操作法を学び、鮮明な画像の描出ができるようになることを目指します。基礎知識の理解を深め、検査手技を身に着けます。 ★仕上がり像 １　超音波診断装置を正しく操作することができる。 ２　アーチファクトがない鮮明な画像を描出できる。 ３　特徴的な所見像を判読することができる。	2 通	45	1	△		○	○		○		
○			救急医療学	急変時、救急処置の必要な患者さんの対応を医療従事者として理解・修得する。 ★仕上がり像 １　生命の大切さを理解する。 ２　救急手当（心肺蘇生法）を理解、修得する。ＡＥＤを使用できる。 ３　応急手当を理解し、修得する。 ４　各種急病（外傷、熱傷、意識障害、腹痛、胸痛など）を理解し、対応できる。	3 前	15	1	○			○			○	

○			生理機能検査学	生理機能検査学では、２年次で学んだ知識を再確認し、臨床的意義についても学びます。測定機器の扱い方やアーチファクトについての知識、検査前処置のやり方、検査の進め方などもを学びます。それらは国家試験にも出題されますので、国家試験問題にも対応できるよう理解を深めていきます。 ★仕上がり像 １　主な生理機能検査について理解できる。 ２　各検査の異常と疾患との関連がわかる。 ３　総合的な見方で国家試験問題にアプローチし解答を導くことができる。	3 通	30	1	○			○		○		
○			検査機器総論	臨床検査に不可欠な検査機器について、その原理・使用目的・取り扱い上の注意・使用する立場での保守管理を理解します。 ★仕上がり像 １　臨床検査機器の原理・使用目的・取り扱い上の注意を理解できる。 ２　臨床検査機器の正しい保守管理を果たせる。	1 通	30	1	○			○		○		
○			検査管理総論Ⅰ	近代医学における臨床検査データは患者の診断･治療･経過観察に不可欠である。検査管理総論Ⅰは「検査データが生まれる」過程の学問である。検査室（科）の役割と組織、検査法の選択、検査機器の選別、そして精度管理に裏打ちされた検査データの信頼性を保証するものである。これらの重要性を認識させて、検査データの信頼性を得ることを目的として講義する。 ★仕上がり像 １　「科学的根拠に基づく検査値の提出」を理解することができる。 ２　検査業務の組織と精度管理の重要性を理解することができる。 ３　検査データを通して「チーム医療」の重要性を認識することができる。	1 後	30	1	○			○			○	
○			検査管理総論Ⅱ	検査精度の管理は、複雑多岐にわたる検査業務の優劣と信頼性を左右する重要なものであり、検査部門の評価にもつながる基盤ともなるものである。従って、その重要性を認識させ、広く医療の一端を担う自覚と自己管理をも含めての技師育成を目的として学習させる。 ★仕上がり像 １　検査業務の管理の仕組みと必要性を理解することができる。 ２　臨床検査全領域における情報管理の重要性を理解することができる。 ３　医療の一端を担う自覚と自己管理の重要性を理解し、検査部門の任務を果たすことができる。	2 通	30	1	○			○			○	
○			病院管理学	病院の基本的組織、体制を理解し、臨床検査技師としての役割を学びます。また、より良い医療の提供を目指すために必要な管理業務について環境を含め学びます。 ★仕上がり像 １　医療従事者の種類と主な働きを述べることができる。 ２　医科診療報酬の主な構造を区別できる。	1 後	15	1	○			○		○		
○			安全管理学	この授業では、リスク管理（リスクマネジメント）の考え方を基本としたフェールセーフやフールプルーフ等の手法を学びながら、安全管理の考え方を身に付けることを目的としています。また、この考えに基づきながら、可燃性物質や有毒物質など、使用にあたって十分注意しなければな らない化学物質について性質（危険性や水溶性等）や貯蔵方法を学び、物質に応じた正しい使用条件の設定方法を学びます。この科目を学んだ結果、未知の化学物質であっても文献や資料などで調査したり、性質や取り扱い上の留意点を予測するなどのリスク管理を行いながら、安全な使用に対する視点を身に付けることを目標としています。 ★仕上がり像 １　安全管理の考えに基づき、実験や検査におけるリスクを分析し、適切なリスク管理手法を選択することができる。 ２　燃焼に関する基礎知識を身に付け、可燃性危険物の性質や特徴を踏まえながら使用上のリスクを分析し、安全に使用するための留意点を列挙することができる。 ３　消防法や毒物劇物取締法の指定に応じて危険性を予測することができる。 ４　主要な毒物劇物について、化学構造や化学的性質、毒性について比較しながら、それぞれの特徴を挙げることができる。 ５　危険物取扱者、毒物劇物取扱者で出題される問題に正しい答えを選ぶことができる。	1 後	15	1	○			○			○	
○			関係法規	病院や診療所等の管理・運営は、「医療法」により規定されている。また、臨床検査技師が行える医療行為及び医療補助行為の範疇は、「医師法」、「保健師助産師看護師法」及び「診療放射線技師法」等との関係法規により重複業務や業務規制が行われている。現代医療は、「チーム医療」であり、臨床検査の担い手である臨床検査技師として、「臨床検査技師等に関する法律」の成り立ち、「採血」や「生理学的検査実施の制限」などの独占業務や「検体検査」の開放業務を理解し、「医療法」等との関連性を理解することは必須である。また、臨床検査技師の実務としての「死体解剖保存法」は、実学教育を理解し、「最後の診断」としての医療や教育での重要性を理解しなければならない。現代医療の「チーム医療」を実践するには、医療施設や「臨床検査技師等に関する法律」に関連する医療職種の業務と法律を理解し、患者のニーズに応えなければならない。 ★仕上がり像 １　保健医療施設関係法規「医療法」及び「地域保健所」を理解し、医療・保健施策の動向を理解する。 ２　医療施設等における「臨床検査技師法等に関する法律」を理解し「チーム医療」に貢献する。 ３　関連する医療従事者の「法律」を理解し、自己能力を十分発揮して、患者のニーズを共有することができる。	1 後	15	1	○			○			○	

○			臨床検査学基礎実習	臨床検査の現場では自動化やシステム化の導入により、ボタン操作ひとつで簡単に結果が出るようになってきました。しかし、その測定原理は分析技術に裏打ちされており、臨床検査技師はその基本を理解した上で扱う必要があります。本実習では、分析に用いる器具・装置の使用目的を学び、その基本操作を習得します。また、各分野における初歩的な臨床検査を行い、その基礎知識および技術を身に付けます。 ★仕上がり像 １　器具・機器の基本操作を身に付けることができる。 ２　目的に応じて使用する器具を選択することができる。 ３　分析機器の測定原理を理解し、測定値への影響を考えることができる。 ４　公衆衛生分野において衛生環境を知る事ができる。 ５　初歩的な臨床検査を理解し、臨床検査についての知識を深めることができる。	1 通	60	2	△		○	○		○		
○			医療安全管理学	近年医療は技術的側面のみでなく安全性や良好な接遇などが求められます。臨床検査技師にも検査技術の専門化とともに安全性や良好な接遇が求められています。本講義では医療安全の概念と臨床検査技師の専門性が求められる感染管理について学びます。また、検体採取については平成２７ 年法改正で検体採取の範囲が広がり採取の要点と注意点について習得します。 ★仕上がり像 １　医療安全の概念について述べることができる。 ２　リスクマネージメントの概念と方法について挙げることができる。 ３　感染管理の重要性を理解し、実践に向けて行動できる。 ４　新法検体採取について説明できる。	3 通	15	1	○			○			○	
○			臨地実習	臨地実習は、学校で学んだ検査技術の基礎・基本の理論と実践が実際の業務として、どのように行われているのか、また、不特定多数の患者さんに、どのように対応しているのかを体験実習するよい機会です。卒業後の進路を決めるためにも、病院と医療社会の概要を理解し、医療人となるための研修を確実に自分のものにするように努力することが必要です。実際に検査について指導者のアドバイスを受けながら、病院には多くの職種の人たちが連携して働いていることについて見学実習し、説明を受け、検査室との関係や役割について学習するとともに、医療チームの一員としての倫理観を養います。 ★仕上がり像 １　患者さんへの対応や医療職のチームワークなどを学習し、マルチな能力を獲得することができる。 ２　臨床検査を理解するのみではなく、その業務ができる。 ３　医療人としての自覚を養うことで、将来の臨床検査技師としての役割を果たせる。	3 前	540	12	△		○		○		○	○
合計				91科目	単位時間(3075単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
当該学科所定の修業年限以上在学し、履修すべき科目のすべてを修得し、学校納入金を完納した者に対して、卒業	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	21週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。